

〈お知らせ〉

## 第36回フローインジェクション分析講演会

### - 講演募集 -

主催 日本分析化学会フローインジェクション分析研究懇談会  
共催 日本分析化学会関東支部

期日 平成11年11月27日(土) 9時~17時

会場 山梨大学工学部T1号館講義室

[山梨県甲府市武田4-3-11]

交通 JR甲府駅北口より徒歩20分、バスの場合、甲府駅北口で乗車、山梨大学前下車

講演 一般講演 招待講演 特別講演

講演申込締切 9月20日(月) 必着

講演申込要領 講演1件につき往復ハガキ1枚を使用し、①申込者氏名、②連絡先(住所、電話、FAX、E-Mail)、③講演題目、④発表者氏名(講演者に○印)、⑤所属、⑥懇親会参加の有無、を記入してお申込下さい。また、返信用ハガキの表には、受け付け通知の送付先を、裏には講演題目、発表者氏名を記入して下さい。講演はOHPを使用し、討論を含めて15分の予定です。

講演要旨原稿締切 10月29日(金) 厳守

A4版用紙を縦に使い、1行38字、1枚38行、2枚にワープロで作成して下さい(図は直接挿入する)。但し、1枚目の左上隅(左8字x4行分)は空白として下さい。

新製品紹介 一般講演と同じ形式とします。紹介講演は1件50,000円とします。

(但し、要旨集への広告料、当日の製品展示、カタログ展示費用を含む)

付設展示会 FIA関連メーカーの製品、カタログ展示を予定しています。

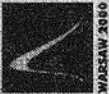
参加費 日本分析化学会会員およびFIA会員2,000円、会員外3,000円。

但し、特別講演、招待講演のみの聴講者は無料。

懇親会 11月27日(土) 18時より山梨大学厚生会館グリルにて開催予定。会費は予約3,000円、当日参加者は4,000円。会費はいずれも当日会場受付でお支払い下さい。

申込・問合せ先 〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37  
山梨大学教育人間科学部化学教室 山根 兵  
TEL&FAX 055-220-8183  
E-mail:yamane@grape.kkb.yamanashi.ac.jp

**8th INTERNATIONAL CONFERENCE ON FLOW ANALYSIS**  
**25 - 29 JUNE 2000 WARSAW - POLAND**




WARSAW 2000

Place  
your  
stamp  
here

DEPARTMENT OF CHEMISTRY  
UNIVERSITY OF WARSAW  
Prof. dr Marek Trojanowicz  
Pasteura 1  
02-093 Warsaw  
Poland

**8th INTERNATIONAL CONFERENCE ON FLOW ANALYSIS**  
**25 - 29 JUNE 2000 WARSAW - POLAND**  
**PRELIMINARY APPLICATION FORM**



WARSAW 2000

Surname: \_\_\_\_\_ First Name: \_\_\_\_\_  
Institution: \_\_\_\_\_  
Address: \_\_\_\_\_  
Country: \_\_\_\_\_  
E-mail: \_\_\_\_\_  
Phone: \_\_\_\_\_ Fax: \_\_\_\_\_

I would like to receive the second announcement

## フローインジェクション分析研究懇談会規約

### (名称)

1. 本研究懇談会は、社団法人日本分析化学会フローインジェクション分析研究懇談会と称する。

### (目的)

2. 本研究懇談会は、フローインジェクション分析法に関する学術と応用技術の進歩、普及をはかることを目的とする。

### (事業)

3. 本研究懇談会は、前項の目的を達成するため次の事業を行う。
  - 1) 講演会等の開催 (年2回以上)
  - 2) 会誌の発行 (年2回)
  - 3) その他本会の目的を達成するための事業

### (運営)

4. 本研究懇談会には委員長と委員若干名からなる運営委員会を置き、本会の企画及び運営を行う。
5. 3条2項の事業(会誌の発行)を円滑に行うために、会誌編集委員会を置く。編集委員会の運営規約は別に定める。
6. 3条3項に係る事業を展開するために、必要に応じ分科会を置く。分科会の設置は運営委員会において承認する。
7. 本研究懇談会の事業は、本部補助金及び会費並びに寄付金などにより行う。

### (会員並びに会費)

8. 本研究懇談会の会員は、個人会員及び団体会員(特別賛助会員及び賛助会員)とし、原則として日本分析化学会の会員とする。
  - 1) 会費 個人会員(一般) 年額 3,000円  
個人会員(学生) 年額 2,000円
  - 2) 会費 団体会員 特別賛助会員 年額 1口 10,000円, 1口以上  
賛助会員 年額 7,000円

### (表彰)

9. 本研究懇談会は、フローインジェクション分析に関し功績のあった者及び本研究懇談会に対し特に功労のあった者を、運営委員会の承認を得て、これを表彰することができる。表彰規定は別に定める。

- 付則 1. この規約は1990年4月1日より施行し、その改正は運営委員会において行う。  
2. 1997年12月一部改定と追加。

## フローインジェクション分析研究懇談会表彰規定

第1条 フローインジェクション分析研究懇談会（以下本会）に、FIA学術賞、FIA技術開発賞、FIA進歩賞、FIA論文賞を設け、本会の会員に贈呈する。

- 1) 学術賞は、フローインジェクション分析（以下FIA）に関する研究が独創的、先導的であり、FIAの進歩と発展に著しく貢献した研究者に贈呈する。
- 2) 技術開発賞は、FIAのシステム、装置、反応系等FIAの技術的進歩と発展に著しく貢献した個人またはグループに贈呈する。
- 3) 進歩賞は、FIAに関する研究が独創的であり、将来を期待される研究者で、受賞の年の4月1日で満40歳以下の研究者に贈呈する。
- 4) 論文賞は、FIAに関する独創的、先導的研究論文あるいは技術的進歩を促す論文に対して、その著者に贈呈する。対象とする論文誌は、「Journal of Flow Injection Analysis」とするが、褒賞委員会の合意により、他誌掲載の論文を対象とすることができる。

第2条 各賞の受賞件数は2件以内とする。ただし、褒賞委員会の合意により変更することができる。

第3条 各賞は賞状と賞牌とし、本会定例講演会において贈呈する。

第4条 本会委員長は、会員に各賞候補者の推薦を7月末日までに依頼する（自薦も可）。推薦に際して、次の書類を提出する。

- 1) 推薦書（A4判用紙1枚）
- 2) 推薦理由書 A4判用紙を縦（1行40字x40行）に使用し、本文及び文献（主要論文）を合わせ3枚以内で作成する。
- 3) 説明資料 特に重要な論文の別刷、その他審査の参考となる資料

第5条 会員は9月末日までに、候補者の了解を得て、候補者を推薦することができる。

第6条 本会委員長は褒賞委員会を設ける。

第7条 褒賞委員会は11月末日までに受賞候補者を決定し、本会委員長に報告する。

付則1. この規定は、1998年3月1日より施行し、その改定は本研究懇談会運営委員会において行う。

## JAFIA 事務局からのお知らせ

- ◇ 本研究懇談会の技術論文誌につきましては、お忙しいところ多数の論文をお寄せいただきありがとうございました。次ページ (p.118) に進捗状況を掲載しています。
  - ◇ 平成11年度のFIA学術賞、FIA技術賞、FIA開発賞、FIA進歩賞、FIA論文賞の受賞候補者を募集します。候補者の推薦締め切りは、8月末日といたします(分析化学会第48年会期間中に褒賞委員会を開催予定のため)。本水委員長までお届けください。他薦、自薦、お待ちしております。
  - ◇ 第36回FIA講演会は、下記のように、山根 兵先生のお世話で山梨大学で開催されます。本誌113ページに詳細があります。多数の参加申込みをお待ちしております。

期 日	平成11年11月27日(土)
場 所	山梨大学工学部
- なお、講演会前日に第3回FIA講習会を企画中です。FIAを始めたい方、FIAの実際について興味ある方の参加をお待ちしています。詳細は「ぶんせき」に掲載予定です。また、実習はFIA若手研究者が担当予定です。ご期待ください。
- ◇ Flow Analysis VIII の2nd Circularの案内がポーランドのTrojanowicz教授から届きました。開催期間は、2000年6月25日(日)～29日(木)です。2nd Circularご希望の方は本誌 p. 114をご覧ください。また、参加ご希望の方は酒井忠雄先生までご連絡ください。
  - ◇ 第34回FIA講演会は、平成11年6月10日(木)、11日(金) Separation Sciences '99 と共催で東京理科大学で開催されました。山田正昭先生、樋口慶郎氏、お世話になりました。なお、次回SS'2000の委員は、板橋英之(群馬大工)先生、樋口慶郎(エフ・アイ・エー機器)氏にお願いいたしました。
  - ◇ 第35回FIA講演会は、The 10th International Conference on Flow Injection Analysis (ICFIA X: 第10回フローインジェクション分析国際会議) と共催で、平成11年6月20～25日プラハ(チェコ)で開催されました。会議の報告書は16巻2号に掲載の予定です。
  - ◇ 毎巻1号には会員名簿を掲載しています。ご確認いただき、住所変更、個人会員の交代や、間違いなどがありましたら、お手数ですがお知らせ下さい。
  - ◇ 平成11年度第1回編集委員会の閉会后、編集委員会では簡素ながら長年編集委員長をお務めいただいた河島先生の退官記念パーティーを行いました。長い間お世話になりました。なお、今後もJFIAの編集委員としてご留任いただけることになりました。よろしく願います。

FIA研究懇談会事務局  
大島光子

## フローインジェクション分析研究懇談会 15 周年記念技術論文集 刊 行 の 進 捗 状 況 (技術論文編集委員)

本会 15 周年記念特集号として技術論文集の刊行準備を進めております。平成 11 年 6 月現在、237 編の論文が審査員の審査を終え、受理されております。現在、事務局ではこれまでに受理された技術論文のフロッピー原稿をもとに、図の取り込み、フォント・ページレイアウトの統一を順次行っています。これらの作業をもとに索引・データベースを構築中であります。近い将来 CD-ROM での刊行も予定しております。

編集作業終了までに若干の日時がありますので、投稿希望の方は至急事務局までご連絡下さい。特に役に立つ実際的分析法を歓迎いたします。装置、パーツ類に関する報告も歓迎いたします。

論文作成要項は以下の通りです。

### 技術論文作成要領

1. タイトル、図の説明をはじめ、基本的に日本語で分かりやすく記述する。
2. 1 論文につき A4 用紙 1 枚とする。
3. 題目、著者、連絡先、著者英語名、要旨、キーワード、本文よりなる。
4. 本文は以下の項からなり、記述内容には基本的に次のことを含む。
  - (1) 「緒言」には、背景、歴史的経過、目的などを述べる。主な参考文献 (5 件程度) を引用する。
  - (2) 「実験」には、試薬の濃度は  $\sim M$  ( $\text{mol l}^{-1}$ )、w%, g/l のように具体的に明記し、追試験を容易にする。必ずフローシステム図を入れる。
  - (3) 「測定原理」を述べ、反応式、用いる試薬の構造式などを書き、原理の理解を容易にする。
  - (4) 「結果及び考察」には、検量線用フローシグナル、相対標準偏差、検出限界、定量範囲などを記述する。実際的应用について、実際試料溶液調整法、妨害、分析結果、従来法との比較、今後の展開などを述べる。
  - (5) 参考文献の書式は、「分析化学」と同じとする。
5. 書式
  - (1) 本文は 2 段組とする。
  - (2) マージン上下左右 2cm、本文 9 ポイント、タイトル太字 12 ポイントとする。参考文献は 9 ポイントより小さくてもよい。

詳細は、Vol. 15, No. 2, p292 を参照して下さい。不明な点は下記までお問い合わせください。

### お送りいただくもの：

1. プリントアウトした原稿
2. 3.5 インチフロッピーディスク
  - (1) 文章と表は MS Word などをテキスト形式で保存したもの。
  - (2) 図、写真などは、ビットマップ (BMP) 形式か JPEG 形式で保存したもの。なければ 12cm x 12cm 程度の原因図がそれに相当するもの (分からない場合は、事務局 高柳 [086-251-7845] までお問い合わせ下さい)。
  - (3) ラベルに、著者名、使用コンピューター機種名、作成ソフト名をお書き下さい。

### 原稿送付先 (問合せ)

〒700-8530 岡山市津島中 3-1-1 岡山大学理学部化学科分析化学研究室内  
FIA 分析研究懇談会 本水昌二 [電話&FAX : 086-251-7846]